

「やってみないと 本当にやりたいことは見つからない」

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、本校教育活動への多大なるご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。2025年も、子どもたちのために、教職員一同、誠心誠意務めてまいりたいと思います。今年も引き続き、よろしくお願いいたします。

さて、今年の学校生活がスタートした1月7日、全校の子どもたちに向けて話をしました。

一番伝えたかったことは、「やってみる」ということです。

子どもには、「好奇心」という大きなチカラが備わっています。「好奇心」は、知ることの楽しさや学ぶ意欲につながり、成長の原動力とも言えるものだと思います。だからこそ、「好奇心」に蓋をするようなことはしたくないと考えています。

学校は、集団活動を前提とした学びの場です。集団であるからこそ、周りの友だちとの関係の中で、互いに影響し合うこととなります。その影響が、個々にとってプラスに働くように、学校は日々努力しています。

私の小学生の頃を思い返すと、3年生の時に、野球を始めたのは友だちからの影響でした。5年生の時に新聞係になって、絵が得意な友だちと一緒に4コマ漫画を書いたり、友だちや担任の先生にインタビューして「何でもランキング」のコーナーを作ったりしたこと、そして、それをクラスの友だちが楽しみ喜んでくれたことも、よく覚えています。6年生の時、友だちの推薦で児童会長になり、期待に応えたいと頑張ったことも懐かしい思い出です。思い返すと、何かを始めたきっかけは友だちがつってくれたことが多いです。

子どもは子どもたちの中で影響し合い、成長します。

子どもたちには、「今自分が好きなことや続けたいと思っていることを大切にするのももちろんいいと思いますが、友だちが好きなことを聞いたり、頑張っていることを『私もやってみようかな』とやってみたりするのもいいことですね。それで好きなことが増えるのも幸せなことですね。」と話しました。

次に伝えたことは、「続けてみよう」ということです。

やってみて、うまくいかないということはよくあります。でも、しばらく続けていると、「前よりうまく（早く）できるようになった」ということがあります。それを見つけた喜びが、「もっとうまくになりたい」「もっと知りたい」という自分の中から湧き出るパワーになります。子どもたちには、誰かに言われて嫌々するよりも、大きなパワーだと話しました。

最後、3つ目に伝えたことは、前よりよくなったことを見つけるために、「自分で自分を振り返ることを大事にしましょう」ということです。家の人や先生、周りの友だちに聞いてみることもいいですねと伝えました。

ご家庭のご協力をいただき、子どもたちが持っている好奇心や可能性を引き出し、個々が自分の成長を実感できる学校づくりを進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



学校評価保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。いただいたご意見は、次年度に向けた計画作成に生かしてまいりたいと思います。集計結果等は、2月下旬に学校だよりでお伝えします。